

韓国環境部プレスリリース【2019-10-15 付け】

## 民間猟師、軍捕獲人員、イノシシ監視装備など可用資源総動員

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1064710&menuId=286>

以下、機械翻訳などによる仮訳

### 【本文】

国防部と環境部は、今日(10月15日)から南方限界線(GOP)と民統線区間内の野生ノイノシシ出没・生息地域を対象に民・軍すべての可用資産を動員して捕獲の措置を開始する。

チョン・ギョンドウ国防部長官は先週の土曜日(10月12日)合同参謀議長、各軍の総長、軍団長らが出席するASF緊急対策会議を主宰し、民統線内の野生イノシシ捕獲方法など境界地域の野生イノシシに対する軍の対応策を議論した。

これによりパク・ハンキ合同参謀議長は昨日(10月14日)地上作戦司令官、境界地域の軍団長など作戦部隊指揮官などや境界地域に生息する野生のイノシシ捕獲対策を協議して軍の詳細履行案を樹立した。

今回捕獲措置には国防部、環境部、山林庁、自治体などが協力して民間猟師、軍捕獲人材、案内幹部、イノシシ監視装備の運用要員など幹部11~12人で構成された70~80の官民軍合同捕獲チーム(以下合同捕獲チーム)が投入される予定。

捕獲措置は坡州市、華川、麟蹄、楊口、高城、鉄原、漣川郡などASFが発生又は発生する可能性の高い境界地域を対象に、該当地域に駐留する軍団長の指揮の下、主要拠点を中心に昼夜に実施。

合同捕獲チームの投入とともに、野生イノシシの捕獲枠も自治体の協調のもと同時に設置運用し、野生イノシシの個体数を減少させる計画。

ASFが発生した地域の場合には、遮断施設を設置した後、合同捕獲チームを投入することで、野生イノシシが他の地域へ移動できないようにする予定。

捕獲の措置は今日から48時間実施した後、安全性、有効性、任務遂行の適切性などを検討して本格実行に突入する計画。

国防部と環境部長官は合同捕獲チームの運営期間中に軍人及び民間人の安全を最優先に考慮することを強調した。

また、チョン長官は捕獲措置地域一帯に対する地域住民など民間人の立ち入り統制を徹底するよう呼びかけた。

国防部と環境部は関係機関と緊密な協力体系を稼働しており、自治体と民間人の出入り統制の案内を協調するなど、ASF 遮断のためにあらゆる必要な措置を取る予定。

軍は道路防疫、統制警戒所の提供など、ASF 拡散防止のための対民支援も続けていく計画です。

(以上)